

思い出あれこれ

私が湘南校舎に勤務してアイトホールを皮切りに、3号館スタジオ、カセットLL教室(大学では初めての試み)、8号館音楽室の音響装置、体育館と多岐にわたり思いつくままに書いてみました。

先日、佐藤誠先輩のメールから新しく認識できたこともあります。

以下に先輩のメール内容をご紹介します。

昭和37年卒 佐藤 誠 です

佐藤一さんからの入学式・ならびに箱根駅伝の情報 大変興味深く見させて頂きました

我々の昭和34年の入学式の写真を見てみましたが

当時と現在とでは大きな相違があるように感じました

当時は我が校には式典ができるホールがなかったので外部での入学式でした我々の入学式は

日本青年会館だったと思います

翌年には 新入生歓迎を含め山のホールで 有馬徹とノーチェ・クバーナを招待し、

学内の音楽サークルなどの演奏会を当時の放研の司会(故・林さん)で行ったと記憶しております

当時の新入生の記念写真は **全員** 学生服でした

現在の画像によればなんとカラフルで個性的な者かと思えます

本日午前中は 応援した方もいたと思いますが

高校野球の神奈川決勝戦(東海大相模:横浜)で

残念ながら9回裏サヨナラ負けでした

春先のメールでもつぶやいたと思いますが 今年の箱根駅伝 小田原と箱根での応援でしたが

前半は健闘したものの後半がよくなかったようです

結果はそれぞれ残念でしたが 誇れる後輩が頑張っているのは大変うれしいことです

時期的には OB 会総会がすでに実施され 皆さんとこのような話題もしていたと思われ

今年はどうなるのでしょうか

(上記、下線・太字は佐藤一が追記。)

(2022.07.27 21:05 のメールから)

1. 入学式

先輩の「当時は我が校には式典ができるホールが

なかったため外部での入学式」で私も思い出した入学式。

われわれは「台東体育館」(写真)で行われました。

その後、2号館ができ「入学式」「卒業式」が行われるよう

になりました。
私が大学に残った時にわかったのですが、実は大学としても最大の行事である「入学式」「卒業式」は湘南で実施したいという気持ちがあったようです。

式典で初めて2号館が使われたのは昭和38年度

(吉田先輩)の卒業式でした。その翌年、われわれは2号館大ホールで卒業式、小ホールで卒業記念パーティーが行われました。

卒業式の最後にアイトホールで映し出された「さようなら!ご壮健で…」の言葉は今でも心に残っていま



す。(OB会 HP「Essay」の「2号館～よもやま話 2～」を見て下さい)また、服装はほとんどが学生服。(もちろんスーツ組もいました。スーツ組は文学部の学生が多かったように思います。)

2. カセット LL 教室

大学では初期の頃のオープンテープレコーダーを使った LL 教室が 1 号館 C 翼にありました。(NEC 製。今はどうなっているか不明ですが・・・)ここでは LL の授業が行われていました。われわれが学生の頃は LL での英語の授業は全くありませんでしたので、LL そのものを理解するのに多くの時間がかかりました。LL を調べているうちに、テープレコーダーの「トラック」という概念を知ることができました。

それは、オープンテープレコーダーでは、家で勉強して録音してきたテープを学校の LL 教室で再生すると、教材の音声の他に何かわからない音が聞こえる。また、自分の勉強している音の他に何か違う音が聞こえる。などのクレームが、学生からありました。(これは故障ではなく、まさに“トラック”の問題です。)

当時、家庭用のテープレコーダーは 1/4 トラック・ステレオが主流で、録音トラックは(1トラック(L ch)、3トラック(R ch))となっていました。

一方、LL 教室のトラックは 1/2 トラック・ステレオで L チャンネルには教材の音声、R チャンネルでは自分の練習した声が聞こえるようになっています。

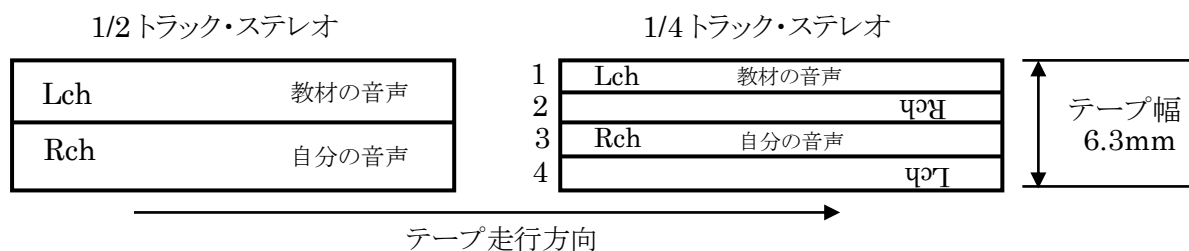


図-2. テープレコーダーのトラック図

また、昭和 43 年ごろだったと思いますが、3 号館に新設したカセット式 LL 教室で、授業が開始され半年位経つと次のような問題が出てきました。つまり学生が練習していると「何か前に練習した音がかすかに聞こえる」というものでした。その音がだんだん大きく聞こえるようになり、対応に迫られました。当時のカセットテープレコーダーは音の消去方式に「直流バイアス」を使っていたため、何回か使っていると完全に消えずに前の音が残ってしまうことが判明しました。そこで、消去方式を「交流バイアス」に変更する必要に迫られました。このことがその後のカセット LL 教室開発とカセットテープレコーダーの機の検討に大きく貢献したと考えています。また、カセットではトラックの互換性があるため上記の問題は起こりませんでした。

3. 8号館でのできごと

芸術学部新設に伴い 8 号館が建設され、その 3 階、4 階だったと思いますが録音室(呼称は正式には覚えていなくて、不正確です。)を作り、そこに調整室も設けて本格的な使用を考えて、先輩の方が設計して翌年 4 月には使えるようにとさまざまな準備が行われていました。(そのころの写真は学園史資料センターにも、ありませんでした。) そうはいつても、8 号館は「学食」というイメージが大きいのですが・・・

やがて、8 号館の録音スタジオもほぼ完成しましたが、まだ建物は一部建築中の個所もあり、その完成を待ってテストすることにしました。さて、年が明けて調整室で新しい調整卓に電源を入れる時でした。

部屋に入ると何となく「かび臭い」感じもしましたが、おもむろにカバーを外し電源「ON」。

何と、「うんともすんとも」言いません? 「皆の顔に一瞬よぎるものがありました」(電源すら入らず、パイロット

ランプもどこも全くつきません)

先輩の設計者(元 FM 東海の技術者でもあった方)は焦らず、考えられる点をチェックしましたが、何も反応がなく、原因もつかめず困り果てました。-(数日後)-結果は「コンクリートの湿気により、使われていたほとんどすべてのリレーが駄目になっていました。」ここでもまた、学ばせていただきました。機器類設置の基本を改めて知ることになりました。また、コンクリートの湿気のすごさも感じた出来事でした。

そのころ、教室に設置しているワイヤレスマイクも湘南校舎だけで 40 チャンネル(40 本)を超える勢いでした。当時、湘南で使用していたワイヤレスマイクのすべては故小城先生(私の恩師)が設計し、特許を取得したもので、当時としては安定性や操作性がよく東海大学ではこのタイプのワイヤレスマイクを採用していました。(マイクロディスコトランジスターを利用したもの)

当時の市販されていたワイヤレスマイクは「マイクを手で持ち、時間が経つと温度上昇により周波数が飛んで全く違う部屋に影響を与えてしまう」などで、大変困った現象が頻発したことで、その対応に迫られていたこともありました。

4. 総合体育館のこと

湘南校舎の学生数が増えてくると、学校の最大の行事である「入学式」「卒業式」が挙行できる場所の問題が出てきて、またしても会場の必要に迫られることとなり、湘南校舎内に新しく作ることになりました。場所はどこにするか? が問題となりました。その折に「学生、父兄、教職員、関係者」等々の収容人数などを考えると少なくとも 1 万人の収容が必要との見通しがあったようです。

また、どこから出た話かは分かりませんが、室内で「100m」競争ができるようにとの意見を反映して、両方の要望を満足させる体育館を建てることになりました(ここは、床部分を斜めにとると、「100m」競争ができるような設計になっています)。

普通、学校の体育館は外光も取り入れ、明るさの基準は「均一さ」「グレア(まぶしさ)」「演色性」などの配慮が求められています。また、式典、催事、非常時の避難場所としても使われるのであらゆる用途に対応することが求められています。そこで、劇場などと同じように建物の残響も大きな問題となっています。所が、皆さんもお気づきのように「総合体育館」はほとんどが「ガラス張り」となっています。また、音響は皆さんに伝えるメインスピーカーと客席に設置した分散スピーカーの二つの方式をとっております。

最初に調整卓に電源を入れ、メインスピーカーで案内をすると、「残響でほとんど聞き取れない」状況でした。分散スピーカーで送ってもほとんど変わらずで、使い物になりません。(具体的な数値は忘れましたが、3 秒~3.5 秒あったと思います)そこで、調整卓横に「遅延装置」(Philips)を入れて対応しましたが、四方がガラス面のため、どうにもなりません。そこで、先ずはすべてのガラス面の内側に少し厚手のカーテンを貼りました。そして、カーテンを閉めた段階で、音を出しましたが大きな変化(ちょっとはいいかな? 程度)はなく、後は床にシートといすを並べ、そこへ人が座ることで音が人に吸収されることに頼ることしかない段階までこぎつけました。この考えはまさに的中しました。

写真のように、教職員、学生、父兄が集まると予想通り人に吸収される効果は絶大なものとなりました。ここでも音の問題を勉強させていただきました。

(掲載の写真は学園史資料センターから提供いただきました。)

